

らいさま

< 特集 >

コミュニティを繋ぐ学校

栃木県下野市は、雷とともに夕立が多い地域です。雷は昔から「雷（らい）さま」と呼ばれ、豊かな作物を育てる恵みの雨をもたらす存在としてあがめられてきました。雨降って地固まると言われるように、この情報紙が、豊かな地域づくりにつながるように「らいさま」と名付けました。

★下野市自治基本条例とは…

私たち市民にとって、よりよいまちづくりを進めるための基本的な考え方、ルールを定めた自治基本条例（平成26年4月制定）は、特別な規制を設けるものではなく、日々さまざまな活動を行っていく中で、よりよい下野市のまちづくりに役立てていこうとするものです。

- P 2 細谷小150年のあゆみ
- P 3 地域を繋ぐ蔵と橋
- P 4 地域を繋げる音と舞
- P 5 細谷小学校区はローカルミーミーがいっぱい
みどRINGフェス～小学校を通じた地域の人の輪～
- P 6 外の目の中の目・らいさまNEWS

令和5年 2月
VOL.16

細谷小150年のあゆみ

こまろ



下毛野朝臣古麻呂
(しもつけのあそんこまろ)
(大宝律令の選定に携わった下野市ゆかりの人物)

今号では、下野市内で唯一の小規模特認校である細谷小学校区の地域と学校にフォーカスして、コミュニティや暮らしについて調べてみました。細谷小学校区は上台・細谷・橋本地区で構成されていますが、細谷小学校在校児童49名のうち、小規模特認校制度を活用して市内全域から20名の児童が通っています（令和4年度）。

小規模特認校ってなに？

通常は教育委員会が定めた通学区域によって、通う小学校が決まりますが、地域との交流や自然とのふれあいなど地域の特性を生かした特色ある教育環境の中で学びたいと希望する児童に対し、一定の条件のもと市内全域から特別に通学を認める制度です。

以前は国分寺西小学校も小規模特認校に指定されていましたが閉校したため、現在市内の小規模特認校は細谷小学校のみです。

自然に囲まれた細谷小学校では、かんぴょう、サツマイモなど農作物の栽培や地域の人たちの協力を得てイチゴ摘み、梨狩り体験、そば打ち体験や楽器体験など、地域の特色を生かし地域とのつながりを大切にしている教育活動を行っています。

細谷小学校沿革

- 明治 6年(1873年) 橋本村・箕輪村・中大領村・細谷村・前原村・下大領村の六ヶ村連合の修習所として時習学舎を橋本に創立
- 22年(1889年) 市町村制の施行に伴い姿村が誕生
- 24年(1891年) 橋本学校と改称
- 25年(1892年) 姿尋常南校と改称し、橋本・細谷の学区となる。
- 昭和 16年(1941年) 姿村立姿南国民学校と改称
- 23年(1948年) 細谷に移転し、上台・橋本・細谷の3学区となる。
- 29年(1956年) 姿村と石橋町の合併により石橋町立細谷小学校となる。
- 平成 10年(1998年) 小規模特認校指定
- 18年(2006年) 南河内町・石橋町・国分寺町の3町合併により下野市立細谷小学校となる。



明治から令和まで続く細谷小学校は創立から150年目を迎えた学校です！中学校は石橋中学校の地区なんだよ。



つながつテルね！
条例6条

(情報提供)

第6条 議会及び市は、その保有する情報について市民との共有財産であるとの認識に立ち、積極的に、かつ、分かりやすく市民への情報提供に努めるものとする。

地域を繋ぐ蔵と橋

上台にあるギャラリー蔵の高山充さんとごぼう農家の茂木正行さんにお話を伺いました。

ギャラリー蔵の建物は、江戸～明治頃に建てられた土蔵です。高山さんは、10年以上前には敷地内の建物でそば打ち教室を行っていました。細谷小の子どもたちにそば打ち体験として教えていたこともあり、昔から絵を描くのが好きで、絵を描いたり飾ったりできる場所がほしかった高山さんは、3年前にギャラリー蔵をオープンしました。作品展示の他にダンスや音楽の練習にも貸出可能で、集会や喫茶スペースも配置された施設には、だんだんと人が集まってきて人とのつながり、コミュニティが生まれています。現在も人々の集う場として地元のみならず市外の人たちにも親しまれています。



現在、この地域はごぼうやいちご、にんじんなどの栽培が盛んですが、以前はかんぴょう農家が多いところでした。昔は農家の広い庭で盆踊りをしたり、釈迦堂 (P5 参照) で開かれるおまつりで駄菓子屋や馬車の荷台を舞台にした演芸なども行われ、老若問わず集まった人々を楽しませていました。



ギャラリー蔵の
高山さん



昭和23年まで、上台に住む子どもは下古山にある小学校に通学していました。姿川を渡る橋を通る必要があったので、大雨のときには橋を渡れず学校に行けないこともありましたが、細谷小学校区になってからは川を渡らずに済むようになりました。



姿川沿いに位置する細谷小学校区は、橋も多く、茂木さんは以前、橋の完成を祝う行事である「渡り初め」に参加しました。「渡り初め」は3世代揃っている家が選ばれ、橋の開通時に3世代の家族を先頭に参加者が橋が長持ちするように願いながら橋を渡りました。



ギャラリー蔵の近所にお住いの茂木さんには、らいさま10号と11号の取材にも協力していただきました。



上台の釈迦堂は上台農村公園の中にあります。



つながッテルね! 条例13条

(市民の責務)

- 第13条 市民は、次に掲げる責務を有するものとする。
- (3) 自らがまちづくりの主体であることを自覚し、実践すること。

地域を繋げる音と舞



～橋本でハンドベルを教えている安達ノリ子さんにお話を伺いました～

安達さんは橋本の自宅で音楽教室を開き、ハンドベルなどの楽器演奏を指導していますが、現在は新型コロナウイルスの影響で教室をお休みしています。教室をお休みする前には、市内外の小学生から自治医科大学の学生や大人まで幅広い年齢層が安達さんの家に集まり、みんなで演奏を楽しんでいました。一時期は細谷小学校でも練習していたそうです。安達さんに楽器を教わっていた子どもが大人になっても交流が続いているなど、音楽教室は細谷小学校区の大切な地域コミュニティのひとつとなっています。



ハンドベルは4～5オクターブ分もあって、低音が出るベルほど重くなります。取材のときに聞かせてもらった音色はとても美しいものでした。

またみんなで演奏を再開できる日を心待ちにしています。



安達さん

ハンドベルのルーツは16世紀のイギリスから始まったんだって！500年前のイギリスで鳴っていた鐘の音が今は細谷小学校区で聞こえるなんてなんだか感慨深いなあ。



～橋本神社神楽会の所 元三郎さんにお話を伺いました～

橋本の南部に在る橋本神社では、神様に奉納される太々神楽(だいだいかぐら)という民俗芸能が行われています。太々神楽は「古事記」や「日本書紀」といった神話劇で、大太鼓や鼓、笛が鳴る舞台上で面と衣装をまとい、無言で舞い踊ります。所さんは定年後に地元とのかかわりを深めようと思い、初めて橋本神社の神楽に関わったそうです。

振り返ってみると地域との交流は大切で楽しく、自治会のコミュニティに入って良かったと思います。



新型コロナの影響でしばらく中止していますが、2時間半かかる神楽を終えた後の打ち上げは格別です。



太々神楽は200年以上前に橋本神社の南にある鷲宮神社で始まり、大正初期に橋本の氏子が神楽の衣装を作ったことをきっかけに、橋本神社に移管されて現在に至ります。また、鷲宮神社は橋本だけでなくその南側に位置する箕輪の人々と合同で氏子を務めています。橋本地区が橋本村(江戸から明治初期)だった頃、箕輪村とともに鷲宮神社を村社としていました。鷲宮神社の本殿は2村の境界の真ん中にあり、境内の面積も折半するなど、橋本と箕輪はそれぞれ別の村であったにも関わらず、神社が行政区を超えたコミュニティを作り出していました。鷲宮神社の宮司を務める宇賀神義宣さんは、橋本神社など細谷小学校区の神社や小井の金井神社など16社の宮司でもあります。



橋本神社



鷲宮神社



つながッテルね! 条例4条

(自治の基本理念)

- 第4条 市民が主役のまちづくりを推進することを基本理念とする。
2 市民、議会及び市が協働によるまちづくりを推進することを基本理念とする。

細谷小学校区はローカルミーム*がいっぱい

*LOCAL MEME®は、合同会社十一編集室の登録商標です。



今回の取材で協力していただいた高山さんと所さん、茂木さんと安達さんはそれぞれ幼馴染で小学校の同級生です。細谷小学校というコミュニティを通じた関係性が年齢を重ね卒業や結婚、就職、定年退職等を経ても変わらず残る一方で、ギャラリーや音楽教室や伝統行事など皆さんそれぞれ自分なりのやり方で地域コミュニティに参加しています。細谷小学校区には魅力あふれる文化や人が交わる地域コミュニティがあり、それらのコミュニティを支える人々をつないでいる細谷小学校は、まさに多世代の交流を生み出すコミュニティの核でした。

※ローカルミーム（文化的遺伝子）とは、人が住む場所に受け継がれてきた、その地域独自の風習や方言、文化のことです。（13号参照）

野生動物

自然豊かな細谷小学校区には狸をはじめ、ウサギやキジなどいろいろな野生動物が生息しています。なんと鹿が現れることもあります。

上台農村公園内にある上台釈迦堂に納められている釈迦如来像は、平安時代の天台宗の僧である慈覚大師円仁の作という言い伝えがあります。



釈迦堂

上台釈迦堂は、様々な行事や地元の人々の集合場所として利用されています。



学校

細谷小学校校舎に掲げられたスローガンは「本気で育てようやさしさとする気」です。



台地の畑

ごぼうの他にもいちごやニラ、にんじんなどが細谷小学校区で作られています。



地域の目 みどRINGフェス ～小学校を通じた地域の人の輪～

日時 2022.10.29(土) 場所 下野市立緑小学校 屋外(校門・駐車場付近～ピロティ~校庭)
主催 下野市立緑小学校PTA本部

緑小学校が開校し、令和5年(2023年)で28年が経ちます。当初500~600名在籍した児童数も現在は200数十名となりました。児童の減少や生活スタイルの変化に伴い、PTAの会員数や役員の担い手も減少し、組織や事業も変化しています。また、令和2年(2020年)以降コロナ禍も続き、子供たちが参加できる行事なども少なくなっていました。

そうしたなか、緑小学校PTA本部主催の「みどRINGフェス」が秋空の下で賑やかに開催されました。会場には、小・中学校PTA本部・南河内子ども会連合会・下野市商工会青年部によるゲームコーナーや、バレエや中学校吹奏楽部による演奏、地域のスポーツクラブ(野球・サッカー・ラクビー・キンボール)体験、社会科見学(警察署・自衛隊・消防署)、昔遊び体験(グリーンクラブ)、手作り品の販売、福祉学習体験(社会福祉協議会)、防災研修(下野市安全安心課・消防団)のコーナーなど年代を問わず楽しめる場が開設されていました。

児童全員に配布されたパンフレットに「緑小学校を通じて「みどRING・みどりの輪」が大きく広がることを願って企画しました」とあり、緑小学校を拠点に小・中学校区(緑小学校・南河内第二中学校)の地域や下野市内外の各団体が参加したり、地元事業者の協賛なども得て、人のつながりによるみどりの輪が大きく広がっているようでした。



つながッテルね!
条例14条

(コミュニティ組織の責務及び支援)

第14条 コミュニティ組織(市民活動団体を含む。)は、適正な団体運営を行うとともに、自らの責任のもと、市民活動を推進し、その活動が広く市民に理解されるよう努めるものとする。



「地域とともにある学校」を礎に 下野市立細谷小学校 校長 蓬田 みどり 氏

細谷小学校の校長先生に
伺いました。



本校は1873年(明治6年)3月15日、橋本地区に『時習学舎』として創立され、今年度150周年を迎えました。これまで天災や様々な社会情勢の影響により、校名や所在地、学区、規模を変えながら、幾星霜を重ねて、現在に至ります。卒業生の中には、初の民政選挙で本県初代知事となられた小平重吉氏をはじめ、政経・実業・医療・農政・教育等多方面に渡って社会貢献に尽力された方が多く、本校の誇りとなっています。

150年前、学校創設に向けた当時の地域や保護者の熱い思いは、今もなお変わらず、学校ボランティア活動やアルミ缶・古紙回収活動等で、温かな支援をいただいています。子どもたちが校舎北側の畑をお借りして、さつまいもやかんぴょう、かぼちゃなどたくさんの野菜を育てるとき、「野菜の先生」になっていただくのも地域の方々です。また、春には「いちご狩り」、夏に「かんぴょう剥き」と「天日干し」、秋には「梨狩り」に「さつまいもほり」など、地域農家のお力添えで貴重な体験活動がいくつも実施できます。自然に触れ、季節を五感でとらえ、人とのつながりを感じる活動の中で、子どもたちは学びを深め、地域への感謝の気持ちを育みます。そして、これらの活動は、本市「小規模特認校」の本校にとって、他校にはない本校ならではの取組となっています。今後も、地域の方々と連携して子どもたちを見守り育てる「地域とともにある細谷小」であり続けてほしいと願っています。

らいさまNEWS

ニュース 下野市は本巢市と友好都市協定を結んでいます。



昭和60年(1985年)に旧根尾村(現岐阜県本巢市)の老人クラブから旧国分寺町へ、日本三大桜である根尾谷の淡墨桜の実生苗20本を譲り受けたことから始まった縁を礎とし、本巢市と下野市は令和4年3月20日に友好都市協定と災害時における相互応援協定を締結しました。

協定は市民を主体とした歴史・文化・観光等の交流を促進させることと災害時には相互応援できる体制を目的としたものであり、協定の準備段階から両市の国内交流協会や文化協会、商工会などが淡墨桜感謝祭への招待や表敬訪問による相互交流を始めました。コロナ禍の中、未だ大規模の交流は困難な状況ですが、昨年末には本巢市特産のブランド柿である富有柿を道の駅しもつけで限定販売するなど、市民や行政間の交流は継続しています。

譲り受けた淡墨桜の
親木は国の天然記念
物なんだよ!



編集後記

今回の取材は、石橋地区の南西部細谷小学校の学区内を訪れました。目的は当地区の太古から現在までの人々の生活の移り変わり取材しました。取材では各地区を訪問させていただきましたが、字や小字の地名は色々な呼び方があり、その由来が歴史上の出来事であったり、周辺の地形だったりしました。たとえば細谷は、台地と台地間の細長い谷地なのでそのように呼ばれていたようです。小学校の学区についてもその歴史を学ぶことができました。また、小学校と学区内の人々との結びつきも深く、まさに学校応援団であるとしみじみ感じました。昔は学校への行きかえりも現在の通学路でなく、未整備の川を舟で渡ったり、遠回りを余儀なくされるなど大変な苦労があったと思います。自分の事になりますが、小中学校は約4キロメートルの道程でありました。冬などは、朝日が筑波の峰の少し上にあるのを背中に受け登校した時を思い出しました。下野市の各地には、かくれた名人がたくさん居ます。らいさまで少しずつ紹介できたら良いなと思います。(諏訪)

【表紙】細谷小学校